

U.S. Indicators

発表日:2019年4月18日(木)

米国 19年3月小売売上高が消費の底堅さを示す

～拡大モメンタム回復～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
18/03	+0.2	(+5.1)	▲0.0	+0.5	+1.3	+0.3	▲0.7	+0.1	▲0.8	▲1.2
18/04	+0.3	(+4.8)	+0.4	+0.2	+0.2	+2.7	+0.6	+0.5	+1.5	+0.4
18/05	+1.2	(+6.4)	+1.4	+0.7	+0.6	▲1.8	+0.1	+1.2	+2.9	+2.9
18/06	+0.2	(+6.1)	+0.3	+0.0	▲0.1	+0.3	+0.9	+0.1	▲1.0	+0.6
18/07	+0.6	(+6.6)	+0.8	+0.1	+0.0	+0.5	+0.1	+0.7	+1.6	+0.4
18/08	▲0.1	(+6.4)	+0.1	▲0.4	▲0.7	▲1.1	+0.0	+0.1	▲3.0	+1.6
18/09	▲0.2	(+4.0)	▲0.3	+0.0	▲0.0	+0.5	▲1.2	▲0.1	+0.7	▲1.3
18/10	+1.0	(+4.6)	+0.8	+1.3	+1.6	▲0.9	▲0.0	+1.0	+1.1	+4.2
18/11	▲0.0	(+4.0)	▲0.1	▲0.1	+0.3	▲0.8	▲1.0	+0.1	+0.2	▲4.2
18/12	▲1.6	(+1.6)	▲2.1	+0.1	+0.4	▲1.3	▲1.2	▲2.8	▲1.3	▲5.9
19/01	+0.8	(+2.9)	+1.4	▲0.2	▲1.8	+0.4	+0.5	+1.4	▲0.9	▲1.7
19/02	▲0.2	(+2.3)	▲0.2	▲1.1	▲0.1	+0.8	▲1.4	+0.1	▲1.8	+3.5
19/03	+1.6	(+3.6)	+1.2	+2.3	+3.1	+1.7	+0.5	+1.3	+2.0	+3.5

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

政府機関の一部閉鎖によって公表の遅れていた3月分の小売統計が4月18日に公表された。19年3月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+1.6%(前月同▲0.2%)と市場予想中央値の同+1.0%を上回った(1、2月合計で0.1%上方修正)。前年同月比でも+3.6%に加速した。3月の小売売上高は、悪天候の影響緩和のほか、雇用・所得の増加傾向、株価・不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの高水準での安定、ガソリン価格の上昇などを背景に、大幅な増加となった。

業態別では、スポーツ用品・本・趣味用品が減少に転じたうえ、薬局が減速した。一方、自動車・同部品、家電、建設資材、食品・飲料、衣料品、百貨店など一般小売、その他小売が増加に転じたほか、家具、飲食店が加速した。また、ガソリンスタンド、通信販売が前月と同率の高い伸びを維持した。

3月の小売売上高の前月比(+1.57%)の寄与度をみると、0.00%寄与にとどまったスポーツ用品・本・趣味用品を除く全分野でプラス寄与となった。自動車・同部品が+0.65%と最も押し上げ、次いで、ガソリンスタンドが+0.29%、通信販売が+0.15%、食品・飲料が+0.12%、衣料品が+0.09%、百貨店を含む一般小売が+0.09%、飲食店が+0.09%、その他小売りが+0.04%、家具が+0.03%、建設資材が+0.02%、家電が+0.01%、薬局が+0.01%となった。

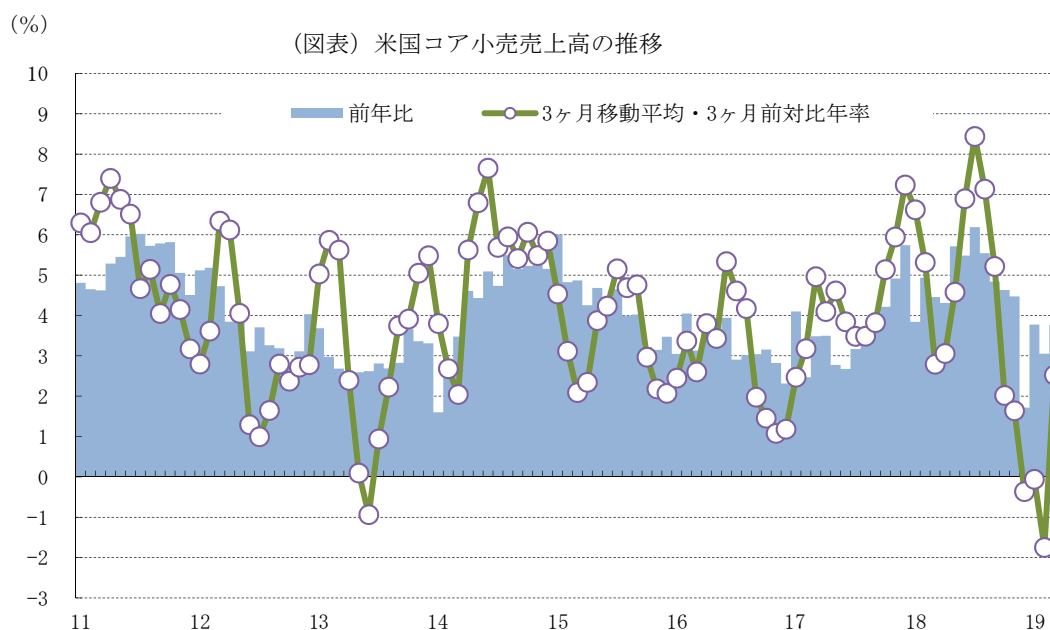
変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+1.2%(前月同▲0.2%)と市場予想の同+0.7%を上回った(1、2月合計で0.2%上方修正)。スポーツ用品・本・趣味用品が減少に転じたうえ、薬局が減速した。一方、家電、建設資材、食品・飲料、衣料品、百貨店など一般小売、その他小売が増加に転じたほか、家具、飲食店が加速した。また、ガソリンスタンド、通信販売が前月と同

率の高い伸びを維持した。前年同月比では、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+3.7%（前月+2.4%）と加速した。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+1.0%（前月同▲0.2%）と増加に転じた（1、2月合計で0.1%上方修正）。スポーツ用品・本・趣味用品が減少に転じたうえ、薬局が減速したものの、家電、食品・飲料、衣料品、百貨店など一般小売、その他小売が増加に転じたほか、家具、飲食店が加速、通信販売が前月と同率の高い伸びを維持した。前年同月比でも、コア小売売上高は+3.8%（前月+3.1%）と加速した。

3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、政府機関の一部閉鎖や株価の急落による12月の急激な落ち込みや、悪天候による2月の縮小によって、12、1、2月と3ヵ月連続でマイナスとなったが、3月に+2.5%（前月▲1.7%）とプラスに転じ、コア小売は勢いを取り戻した。また、四半期では1-3月期のコア小売売上高が前期比年率+2.5%と10-12月期の前期比年率▲0.4%からプラスに転じた。

実質個人消費は、政府機関の一部閉鎖、悪天候などの一時的な要因によって、1-3月期に前期比年率+1.3%程度に減速したと見込まれる。しかし、4-6月期には、雇用・所得の拡大が続くなか、一時的な要因の剥落によって前期比年率+3%程度に拡大ペースを速めると予想される。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。